

平成 29 年 5 月 12 日

株式会社 四国銀行

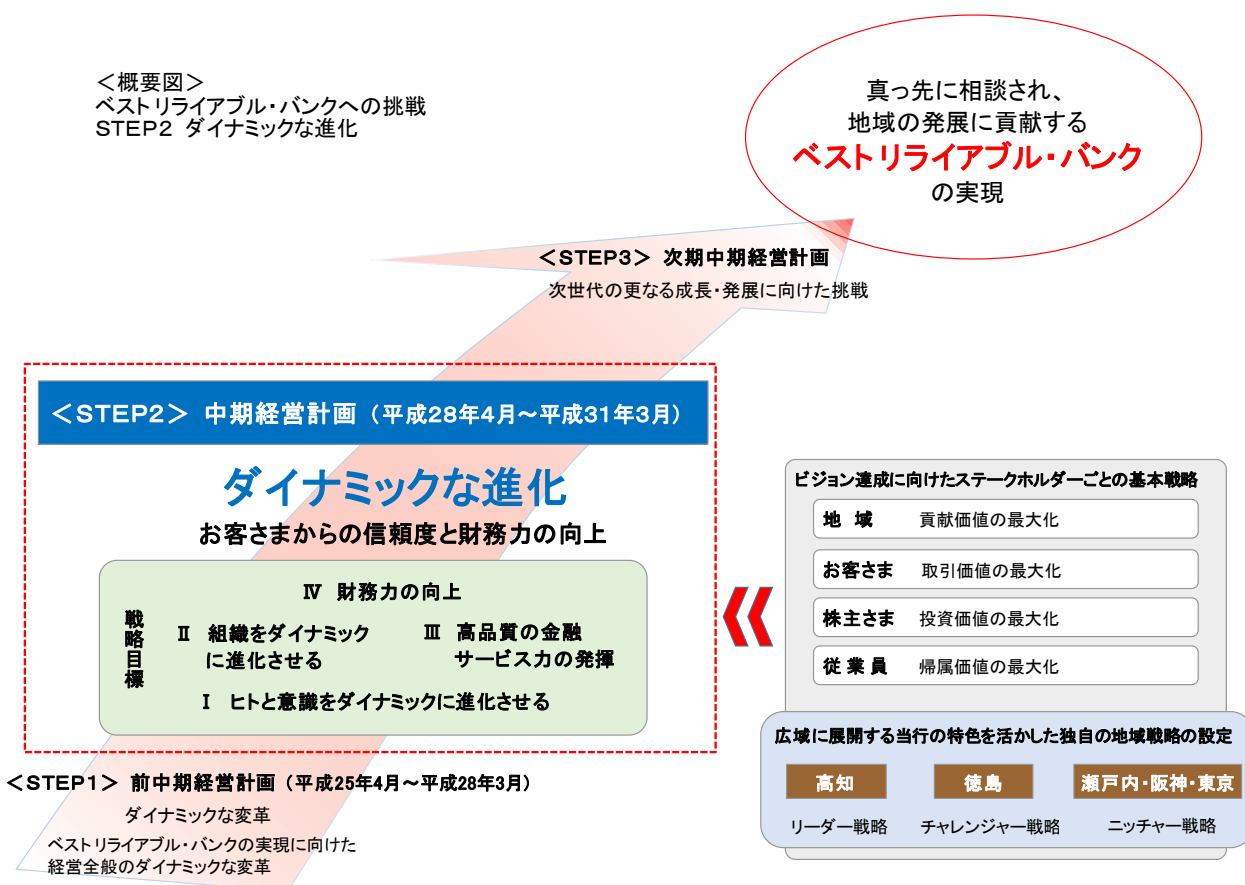
中期経営計画 中間年度（平成 29 年度）の重点施策と数値目標について

株式会社四国銀行（頭取 山元文明）は、昨年 4 月に公表しました中期経営計画「ベスト リライアブル・バンクへの挑戦 ステップ 2」（平成 28 年 4 月～平成 31 年 3 月）について、外部環境の変化や初年度の結果・課題を踏まえ、中間年度に当たる平成 29 年度の重点施策と数値目標を決定しましたので、その概要を下記のとおりお知らせいたします。

記

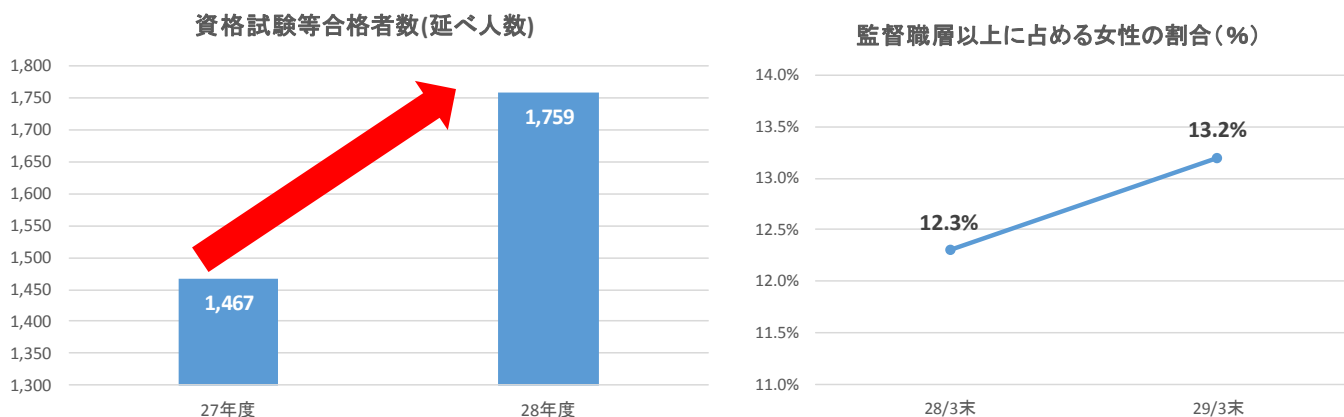
1. 中期経営計画の概要

現在取り組んでおります中期経営計画は、ビジョンである「真っ先に相談され、地域の発展に貢献するベスト リライアブル・バンク」の実現に向け、3つのステップを踏んで到達するためのセカンドステージと位置付けるものです。



2. 中期経営計画 初年度（平成 28 年度）の総括

（1）戦略目標Ⅰ【ヒトと意識をダイナミックに進化させる】



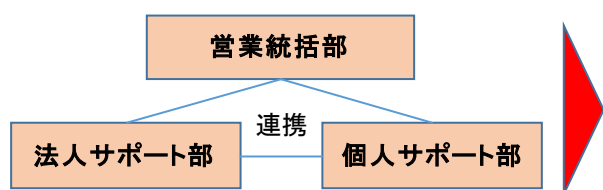
○自ら学ぶ風土の醸成に向け、各種資格試験に積極的にチャレンジしました。

☞ 平成 29 年度も専門性の高い資格取得や女性の活躍機会の拡大に取り組んでまいります。

○監督職層以上に占める女性行員の割合は着実に増加しました。

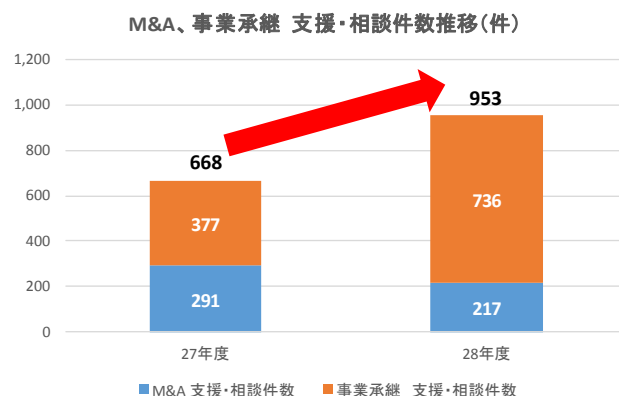
（2）戦略目標Ⅱ・Ⅲ【組織をダイナミックに進化させる・高品質の金融サービス力の発揮】

＜本部営業部門を 3 部制へ移行＞



高品質の
サービス提供

また、各種市場性貸出等への対応を強化するため、市場金融部東京営業室を新設いたしました。

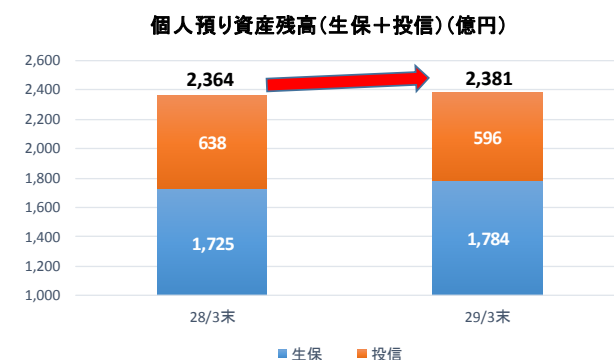
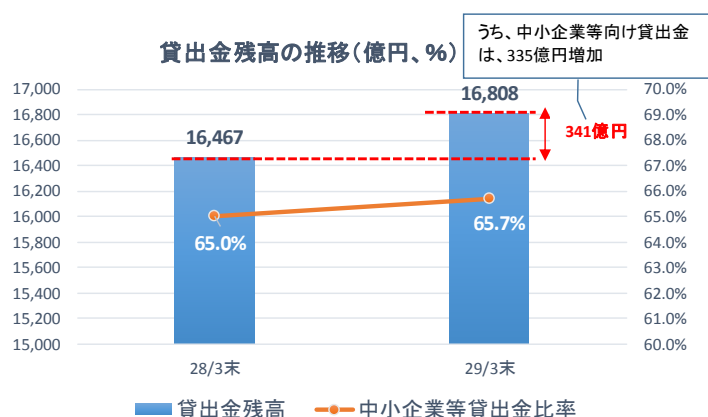


○M&A、事業承継といった、お客さまの課題解決に向けた支援件数は着実に増加しました。

○ライフステージに応じたコンサルティング機能の発揮により中小企業等向け貸出金は 335 億円増加しました。また、中小企業等貸出金比率も上昇し、アセット構造の改革は進展しております。

○お客さまの資産運用および資産形成のサポートに努めましたが、個人預り資産残高については、市場環境の影響もあり、一定の増加に止まりました。

☞ 高品質の金融サービス力の発揮に努め、お客さまの課題解決や資産形成をサポートしてまいります。

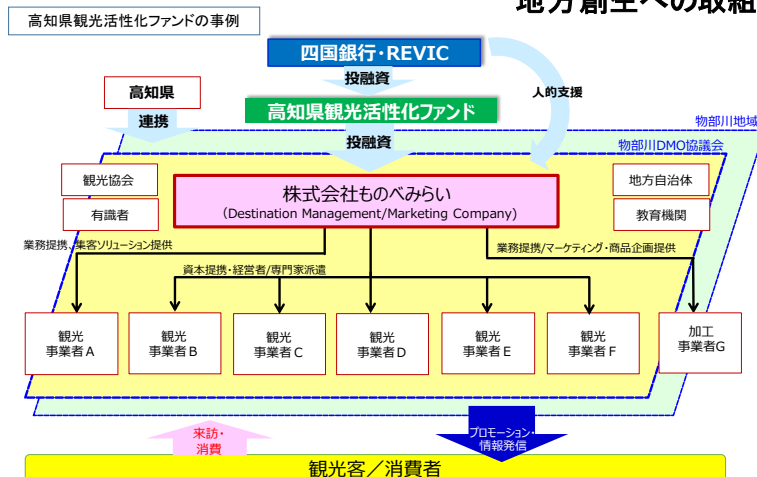


＜地方創生に向けた態勢整備＞

地域振興部の新設

「四国アライアンス」の締結

地方創生への取組み加速



○地域の観光活性化を目的に平成27年10月に設立した「高知県観光活性化ファンド」の投資第1号案件として、日本初の持ち株DMC会社である「株式会社ものべみらい」を平成28年9月に設立しました。同年11月には、地域の観光活性化に向け、第1号の出資を行いました。

☞ 高知県観光活性化ファンド等も活用することで、地域活性化に取り組んでまいります。

○平成28年11月、阿波銀行、百十四銀行および伊予銀行との間で、包括提携「四国アライアンス」を締結いたしました。

☞ 四国全域の活性化や創生に向け、5つのテーマ（「興す」「活かす」「繋げる」「育む」「協働する」）に取り組んでまいります。

（3）戦略目標Ⅳ【財務力の向上】

■数値目標の結果（単体ベース）

項目	経営指標	数値目標	実績
収益性（29/3末）	実質業務純益	85億円以上	90億円
	当期純利益	40億円以上	70億円
	ROE（株主資本ベース）	4.0%以上	6.9%

○戦略目標に基づく各種施策に取り組んだ結果、中期経営計画初年度の収益性目標は全て達成することができました。

☞ 地域金融機関を取り巻く収益環境は一段と厳しさを増しておりますが、お客さまの成長に資する各種取組みの強化や資産形成へのご支援など、中長期的な視点での取組みを徹底することで、安定収益の確保に努めてまいります。

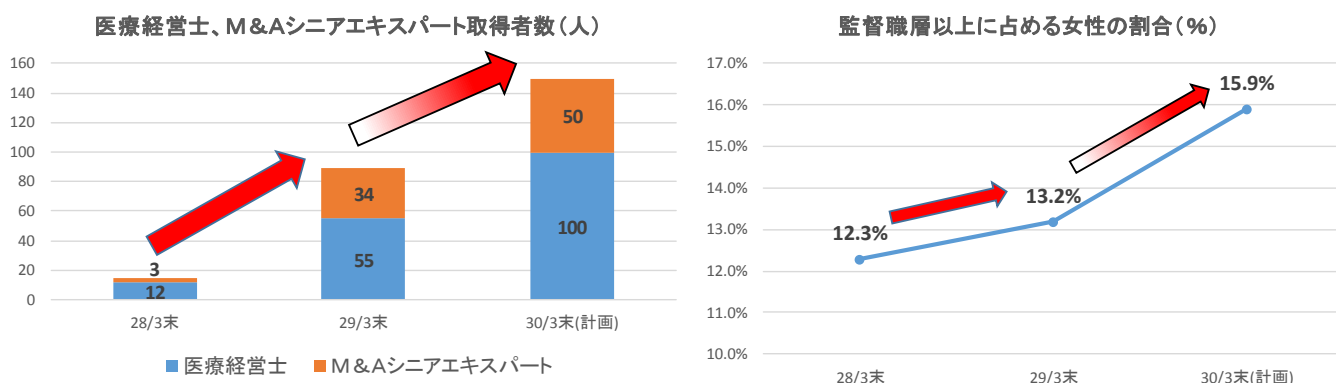
3. 中期経営計画 中間年度（平成 29 年度）の重点施策と数値目標

中期経営計画の中間年度である平成 29 年度は、お客さまとともに持続的に成長・発展するため、お客さま本位の質の高い金融サービスの提供を軸とした業務運営を徹底するとともに、昨年締結した「四国アライアンス」を軌道に乗せることで、地域経済の活性化と経営基盤の強化を図ります。

（1）戦略目標Ⅰ【ヒトと意識をダイナミックに進化させる】

【重点施策】

人財の育成とやりがいにつながる仕組みづくり



○専門性の高い資格を持った人財の育成、女性の活躍機会の更なる拡大を推進します。

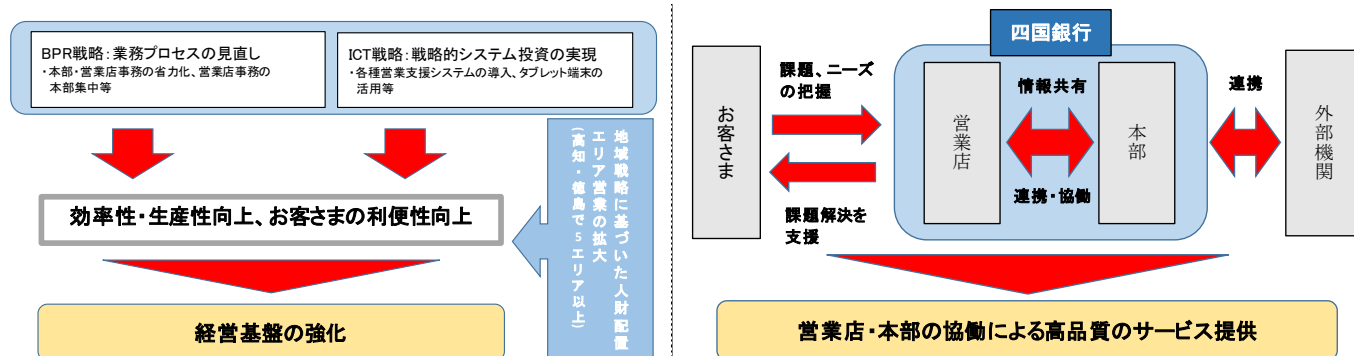
将来を担う人財の育成・開発

組織活力の向上

（2）戦略目標Ⅱ【組織をダイナミックに進化させる】

【重点施策】

- ①地域戦略に基づいた人財配置とエリア営業の拡大
- ②BPRの推進とICTを活用した業務運営の効率化促進
- ③実効性の高い営業店支援態勢の整備による高品質のサービス提供



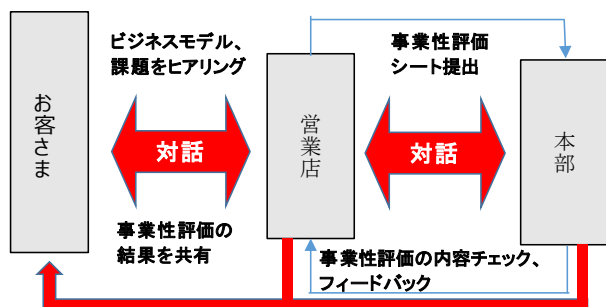
○効率性・生産性の向上、お客さまの利便性の向上に向け、BPR戦略、ICT戦略を推進するとともに、地域戦略に基づいた人財配置とエリア営業を拡大することで、経営基盤の強化を図ります。

○お客さまの課題解決に向け、営業店と本部各部の情報共有を一層密にするとともに、外部機関とも連携して、お客さまへ高品質のサービスを提供いたします。

(3) 戦略目標Ⅲ【高品質の金融サービス力の発揮】

【重点施策】	①事業性評価、コンサルティング営業の推進
	②お客さま本位の金融商品・サービスの提供
	③地方創生に向けた活動の強化

■法人のお客さま

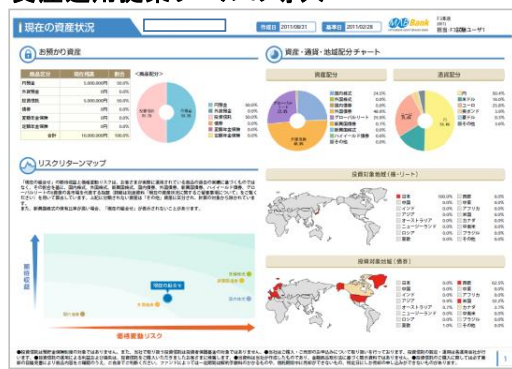


営業店・本部協働による、課題解決に向けた提案・支援を実施

①地域中核企業：地元経済、雇用に対し強い影響力を持つ企業・産業。
②成長サポート先：財務データ主体の判断では取組みが困難だが、事業の将来性がある先や、地域になくてはならない先。

■個人のお客さま

資産運用提案ツールの導入

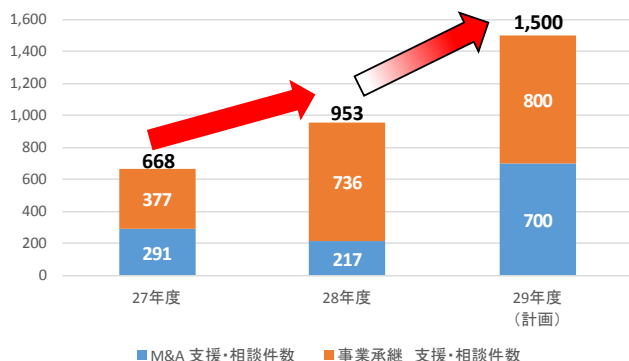


○事業性評価シートの作成対象先を、地域中核企業、成長サポート先等に拡大し、お客さまとの対話に基づく各種支援を推進いたします。

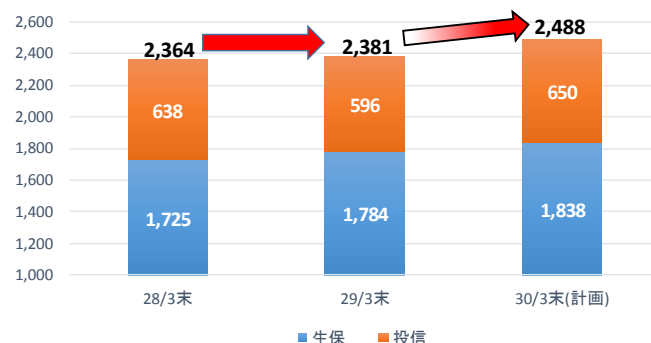
○資産運用提案ツールなどにより、お客さまのライフステージに応じた金融商品・サービスの提供を強化いたします。※「喜んでもらえる」活動を徹底。



M&A、事業承継 支援・相談件数推移・計画(件)



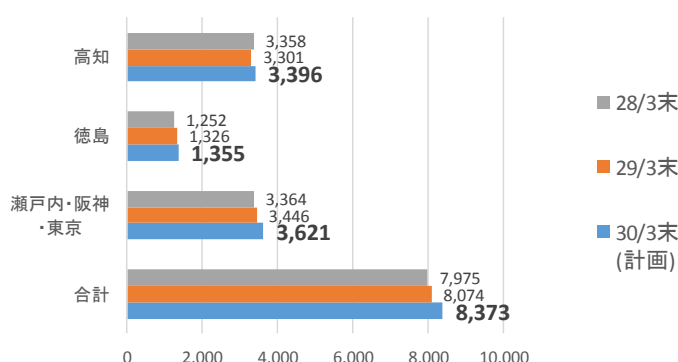
個人預り資産残高(生保+投信)(億円)



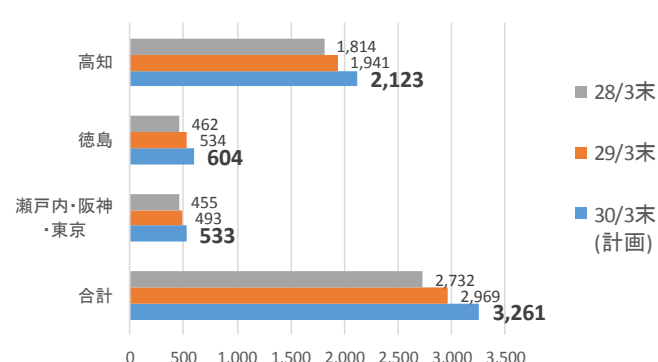
○多くの中小企業が抱える事業承継問題に対する支援を強化いたします。

○各種お客さまセミナーによる情報提供や対話を通じて、お客さまの資産運用や資産形成といったニーズにお応えいたします。

地域別中小企業向け貸出金残高推移・計画(億円)

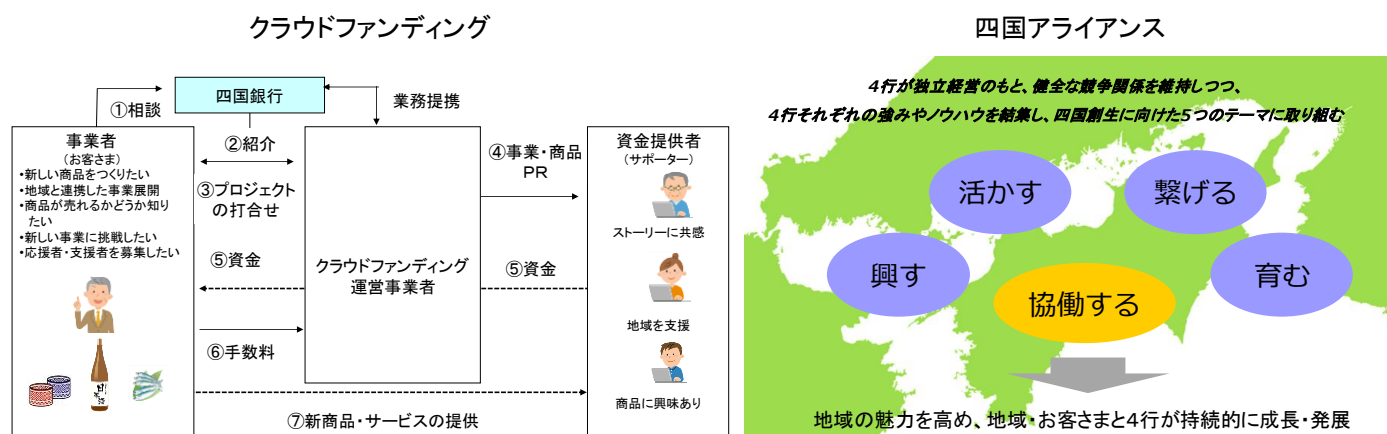


地域別個人向け貸出金残高推移・計画(億円)



当行独自の地域戦略に基づいた営業活動を徹底することで、法人・個人の取引基盤の拡大を図ってまいります。

■地方創生への取組み



○引き続き、クラウドファンディング等を活用した「地域おこし」「地域ブランド力の向上」に取り組んでまいります。

○昨年締結した「四国アライアンス」を推進し、四国創生に向けた活動を強化いたします。

（４）戦略目標Ⅳ【財務力の向上】

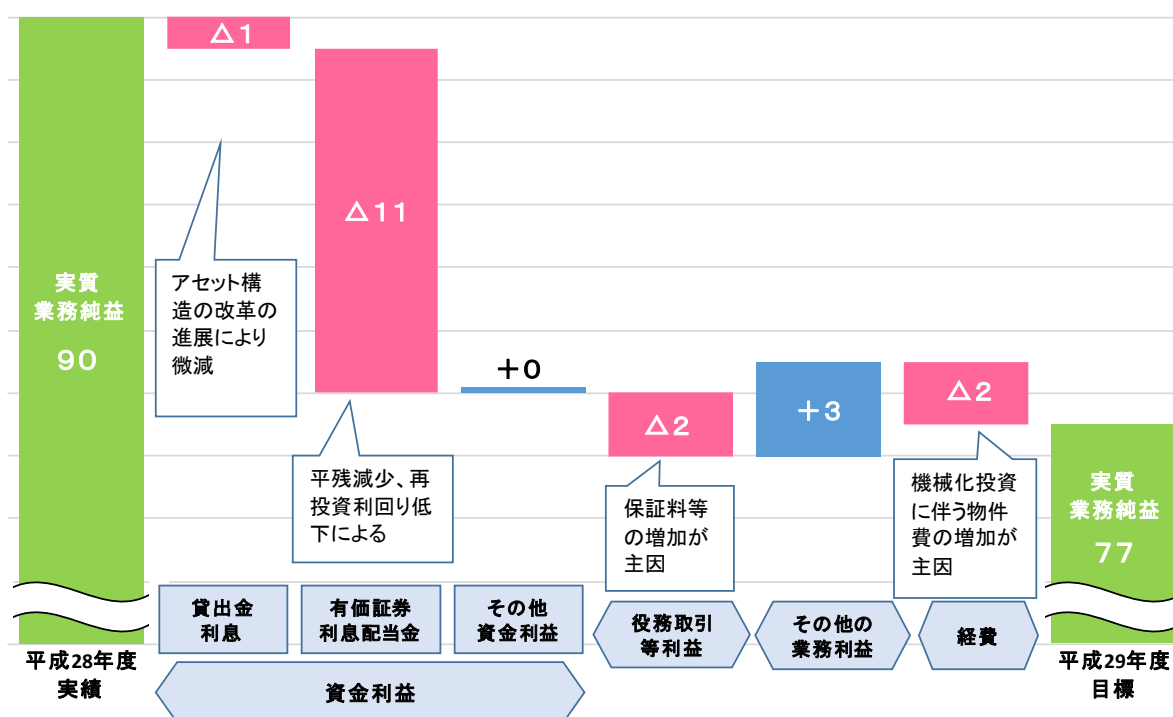
お客さま本位の業務運営の徹底と当行の持続性の基盤となる地域活性化への貢献、加えて、フォワードルッキングな視点に基づくリスク管理を強化することで、下記数値目標の達成に取り組んでまいります。

■平成29年度の数値目標（単体ベース）

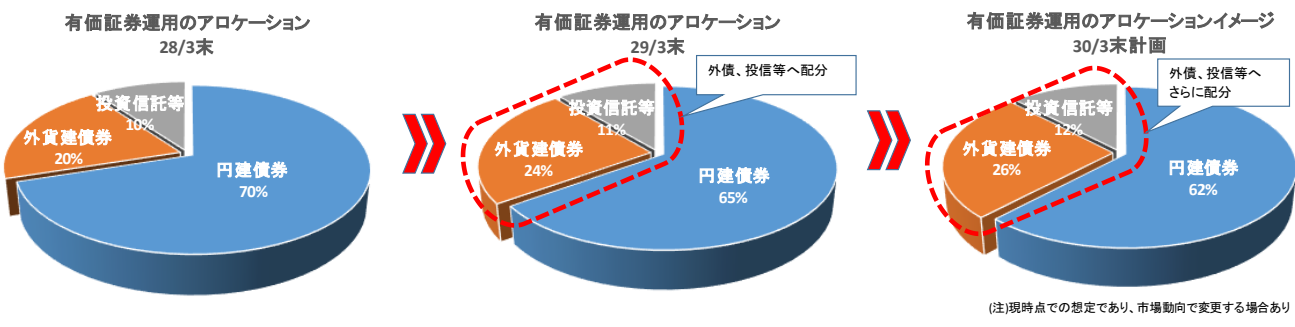
項目	経営指標	平成28年度実績	平成29年度数値目標
収益性（30/3末）	実質業務純益	90億円	77億円以上
	当期純利益	70億円	53億円以上
	ROE（株主資本ベース）	6.9%	5.0%以上

※平成28年度と同様に単年度の目標としております。

実質業務純益の増減要因(単位:億円)



※有価証券運用のアロケーションイメージ



(ご参考)

中期経営計画における規模と健全性の目標につきましては、3 か年計画の最終年度の数値目標としており、今回変更ございません。

項目	経営指標	平成28年3月 末実績	平成29年3月 末実績	最終年度目標
規模 (31/3末)	貸出金残高 (末残)	1兆6,467億円	1兆6,808億円	1兆7,300億円以上
	預金等残高 (末残)	2兆5,836億円	2兆6,203億円	2兆6,000億円以上
	個人預り資産残高 (投信＋生保)	2,364億円	2,381億円	2,600億円以上
健全性 (31/3末)	自己資本比率	10.43%	9.56%	9%台後半

以上